

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3570500490		
法人名	医療法人 竹内医院		
事業所名	グループホーム のんた		
所在地	山口県周南市大字戸田2806-1		
自己評価作成日	評価結果市町受理日	令和3年7月12日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
聞き取り調査実施日	令和3年2月2日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

福祉と医療が一体となり認知症の方が、その人らしく、いきいきと暮らしていただけるよう取り組んでいます。また、経営母体が医療機関である事を活かし日常の健康状態の管理から緊急時の対応やターミナルケアも段階に対応してします。地域の方々や年中を通し行事などで交流を持つよう勤め、つながりを深め地域の中で生活を送っていただけるよう心がけています。入居者やご家族の希望があれば看取りまでを過ごされたホームの中で迎えられるよう取り組んでおります。小学校や幼稚園が近くにあり、行事や散歩の時などに交流があり世代交流が盛んです。年間行事の参加や家族との行事なども企画しておりご家族同士の交流も盛んになっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者と職員は、一緒に季節の飾り物づくりを楽しまれたり、食事の準備や後片付け、保存食づくりなどを一緒にされている他、俳句を読まれたり、縫物や編み物、書き写しなど、利用者一人ひとりのできることを活かした活躍できる場面づくりをしておられます。コロナ禍で、地域の行事が中止となったり、外出の機会が少なくなっている中でも、散歩や外気浴、日光浴、事業所前の桜の花見、理美容院の利用、ドライブ、家族と一緒に受診など、様々工夫されて、共に過ごされる時間を大切にしておられ、張り合いや喜びのある日々が過ごせるように支援に取り組んでおられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、活き活きと働いている (参考項目:12. 13)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:29)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入社時より職員には理念の必要性と専門職としての自覚を促している。また、カンファレンスなど定期的に理念を振り返る機会を設け日々考えながらの実践を促している。	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、事業所内に掲示している。会議時や日常業務の中で話し合い、共有して、理念の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	法人が昔から地域とのつながりが深く、開設時より、地域の方々のご協力を頂いている。地域行事や、ホームでのイベント、週間予定などで利用者と地域のつながりが継続されるよう努めている。自治会に加入し、管理者は地区自主防災組織の福祉施設顧問を受けて、事業所を含めての連携について話し合っている。地域の人から花や野菜の差し入れがあるなど、日常的に交流をしている	自治会に加入している。コロナ禍の中、地域行事の盆踊りや春と秋の八幡宮の祭りなどは中止となり、地域の人との交流の場が少なくなっている。馴染みのボランティアと玄関や勝手口越しに、声をかけあつての交流をしている。中学生の福祉体験の受け入れやボランティアの来訪はない。地域からは古新聞や手芸作品、絵、正月飾りなどの差し入れや花や野菜等の差し入れもあり、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティアに入られている方々や災害時の協力員の方々、また運営推進会議の場などを通じ必要に応じて地域の方々へ認知症への理解を促している。今年度は実績がない。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	外部評価結果及び自己評価を事業所の現状とし、課題を抽出し、振り返る機会としている。前回の自己評価結果を基にカンファレンス時に職員と話し合い、ケアへの展開を図っている。	管理者は、評価の意義を職員に説明し、事業所の現状や課題などを振り返る機会として全職員が記入後に、まとめている。利用者の自立や自律について考える機会を大切にし、新しい取り組みについて話し合うなど、改善に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は2ヶ月に1回開催している。利用者の状況、職員状況、行事、活動報告、ヒヤリハット、事故報告、外部評価の結果などを報告し、話し合っている。今年度は年初よりインフルエンザ、新型コロナウイルスの影響で集合開催は行っていないが、文書でのやり取りで推進介護のメンバーの方々からは様々な提案や意見を頂戴し、ケアの実践に取り入れている。	会議は2ヶ月に1回の開催し、利用者状況、行事予定、活動報告、ヒヤリハット、事故報告を実施している。コロナ禍で文書開催となり、メンバーとの意見交換の場は少なくなったが、施設の構造上、フロアから厨房や廊下の職員の様子が見えにくいや感染予防対策、利用者の履物の選定による事故防止、コロナ禍で事業中止の多い中での活動について意見交換をしている。職員間では、報告書、議事録を閲覧することで共有している。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市担当者とは、運営推進会議の他、電話やメール、更新時や基準設備の解釈、事故報告などで窓口に出向いたり、市主催の会議や研修会で情報交換をしているなど、協力関係を築いている。	市担当者とは、運営推進会議の他、コロナ関係での電話やメールで情報交換を行う他、書類等で連絡を取ることで協力関係を築いている。地域包括支援センター職員とは運営推進会議の書類参加を得ている他、包括ケースの虐待案件の利用者相談等や市の認知症地域推進員の会議への出席時、認知症カフェの研修会への出席などで連携している。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	認知症ケアの実践において三原則以外の身体拘束は援助者として不必要であることは周知させている。また、利用者が一人の人間としての人権を守るべく職員には日々現場での実践に取り組むよう促している。	職員は「身体拘束の適正化に関する指針」に基づいて身体拘束をしないケアについて学び、正しく理解している。身体拘束適正化委員会は運営推進会議に合わせて実施している。玄関はコロナ禍で不特定の立会いを制限し、施錠しているが、利用者が外出したい時は職員が話を聞いたり、他の行動に導くなどで、利用者が閉塞感を持たないよう配慮するようにしている。スピーチロックについては、職員間で話し合う他、気になる言動や行動については管理者が指導するなど、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束と同様に日常的に職員間で虐待等が無いよう取り組んでいる。事故報告書やヒヤリハットなど用いて日々のケアの中で気付いていない虐待の有無も見直している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年度は未開催だが、法人内の学習会や、OFF-JTなどを用いて制度の必要性、職員としての専門性を高めるよう機会を設けるようにしている。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時及び、法改正の際に丁寧に説明は行っている。また、互いに不利益等の無いように契約内容に関しては十分な説明を行っている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談や苦情の受付体制や処理手続きを定め、契約時に利用者や家族に説明している。電話や面会時、年1回の家族会や事業所行事の参加時に家族からの意見や要望を聞いている。これまで、ケアに対する要望はあるが、運営に反映させるまでの意見や要望は出ていない。利用者は介護相談員に相談する機会がある。事業所だよりで事業所行事への参加案内をしているなど、意見が出やすいように工夫している。	相談、苦情受付体制、処理手続きを定め、契約時に利用者や家族に説明している。面会時や電話、メール、ケアプラン送付時等に家族から意見や要望を聞いている。家族から意見や要望が出やすい雰囲気づくりに努め、ケアに関する要望についてはその都度対応している。運営に反映させるまでの意見や要望は出ていない。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は月1回の定例会議時に職員の意見や提案を聞く機会を設けている他、日常業務の中でも聞いている。職員から出た提案等は、管理者が法人の管理者会議時に報告している。職員からは、家族状況等によつての勤務体制の変更や職員体制の充実についての意見や要望があり、反映させている。	コロナ禍で集合での会議は中止しているため、管理者は個別に相談に乗るなど日常業務の中で職員の意見を聞く機会を設けて、有休休暇の取り扱いや勤務体制の変更、職員の雇用などの職員の意見や要望を反映している。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者からの現状報告や、相談する機会を設けたり、労働条件の見直しや職場環境の整備などに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部、外部研修は今年度は控えて情報資料を配布し、振り返りを持つように促している。職員に対しては新人職員は法人研修受講後、先輩職員について働きながら学べるように支援している。	外部研修は、職員に情報を伝え、職員の段階や希望に応じ、勤務の一環として参加の機会を提供している。介護支援専門員更新研修に参加している。内部研修は、年間計画を作成して、「自己評価について」、「新型コロナ感染症」、「認知症の人と向き合うための基本の関わり方」、災害時のマニュアル確認等、資料配布を中心に実施している。新人研修は法人研修後は、日常業務の中で先輩職員の指導の下に、働きながら学べる様に支援している。	・計画的な内部研修の継続
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	周南市の近隣の事業所と共同で学習会を開催したり、外部からの実習生の受け入れや学習会や、職員の意識向上に繋がるように努めている。今年度は外部との交流は控えている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人意思を聞き取ると同時に適切なサービスが提供できるように情報収集を行いケアの現場に取り入れるようにしている。また、利用者話しやすい環境づくり、関係性に気を付けている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	介護保険制度の内容や契約内容、ホームでの心配事ほか、さまざまな心配事項は相談を受け入れ納得された上での円滑なサービス導入が出来るように努めている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	契約前の相談や契約時に本当にグループホームのケアが適切であるかを見極めると同時に必要であれば他のサービスを検討する事も視野に含めた対応をしている。また希望に応じて利用開始前に短期利用から契約を開始することもある。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	寄り添う心とつながりを大切にする事。援助を行う職員もまた、関わることで人間性や、専門職としての成長に繋がるように関わるよう促している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	今年度については家族との関りが受診の際や緊急時など最低限の場面でのみとなっている。面会についても制限緩和する際には玄関越しなどで対応している。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今年度については大きく制限しているが、家族の面会や孫、親戚の人、友人、知人の来訪がある他、顔馴染みのボランティアの来訪がある。自宅周辺のドライブ、馴染みの地域の盆踊り、八幡宮への初詣の支援をしている他、家族の協力を得ての外出や外食、外泊、馴染みの美容院の利用、墓参り、法事への参加など、馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援している。	家族の面会や親戚、知人、友人の来訪がある他、手紙や年賀状、暑中見舞い状での交流、電話の取次ぎや携帯電話での交流を支援している。コロナ禍で面会は玄関で行い、クリアシートを設置し、健康チェックや検温を実施後に面会を短時間にするなどの工夫をしている。事業所としては自宅周辺のドライブをしている他、家族の協力を得ての外出や一時帰宅、行きつけの美容院利用、墓参りなど、馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援している。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者それぞれの関係性も把握し、職員が適切に間に入るなどの取り組みを行い、入居者同士の支え合いの場が保たれるように努めている。		
23		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	GHの周辺のご家族であればお会いした際に最近の様子など聴く機会もあるので場合によっては継続的に相談に乗れるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者も徐々にADLや認知度が低下していく事はしばしばである。困難な場面や状況が増えてきた際は利用者のそれまでの思いやご家族の思いが十分に反映されるように取り組んでいる。利用者の好きなこと、性格、趣味、昔の思い出、こだわりなど、一人ひとりの思いや意向を把握している他、日常生活の中で把握した思いや言動は介護記録に記入し、職員間での情報共有に努めている。本人からの把握が困難な場合は、家族から聞き取り、利用者とのコミュニケーションを大切に個々の思いを把握して本人本位に検討している。	入居時は基本情報やアセスメントシートを活用して、利用者のできること、好きなこと、したいことなどを把握している他、日々の関わりの中での利用者の言葉や表情、行動などを介護記録に記録にして、思いや意向の把握に努めている。困難な場合は家族から聞き取り、職員間で話し合い、本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	過去のサービス関係者からの情報をご家族含め関係している方々から必要に応じて情報収集が出来るように努めている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	現状に行き着くまでの利用者の性格や他者との付き合い方も考慮し、また、ADLや認知症状に合った状態を適切に把握できるように取り組んでいる。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の思いや家族の意向、医師、看護師の意見を参考にして、計画作成担当者を中心に介護計画を作成している。6か月毎にモニタリングを実施し、見直しをしている。介護計画は、職員全員が共有し、チームで対応し、利用者の状態に変化があるときにはその都度見直しをして、現状に走駆した介護計画を作成している。	利用者や家族の思いや意向の把握に努めると共に、医師や看護師の意見を参考にして、計画作成担当者を中心にして話し合い、介護計画を作成している。6ヶ月毎にモニタリングを実施し、見直しをしている。利用者の状態に変化がある時は、その都度見直しをして現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご利用者の生活上の困りごとの原因の状況を気づけるように職員間で意識を統一できるように取り組むようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	職員のケアの実践がGH内のみで完結するのではなく利用者やご家族のニーズに添えるように外出支援など出来るように事業所も協力するようにしている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	公文、童謡の会、健康体操、地域活動への参加などを例年は行っているが今年度は実績がない。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望する以前からのかかりつけ医の他、協力医療機関をかかりつけ医とし、協力医療機関からは月2回の訪問診療がある。それ以外は、家族の協力を得て受診の支援をしている。受診時には文章で医師に情報提供し、受診結果は面会時や電話で家族に伝えている。職員間では基本ファイルに保管して情報を共有している。薬の変更がある場合は、申し送りノートで共有している。夜間時や緊急時は協力医療機関や看護師と連携して適切な医療を受けられるよう支援している。	医療機関をかかりつけ医とし、協力医療機関から月2回の訪問診療がある。他科受診は家族の協力を得て受診し、初診時にはかかりつけ医からの紹介状に併せて生活の様子を事業所で作成して情報提供をしている。歯科は希望に応じて訪問歯科診療が受けられる。緊急時や夜間時は協力医療機関と連携し、対応をして、適切な医療を受けられるよう支援している。申し送りノートや個別記録で職員は情報を共有している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	GH内の看護師や法人の看護職員とも相談がしやすい関係性が構築されており、すぐに対応が出来る体制を整えている。また看護師が独自で会議も開催しており、健康管理の情報など介護職員とも共有をしている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にご家族から現状の相談を受けると共に法人の医院からも入院先からの情報提供がもらえる関係性が出来ている。また職員も入院先へ訪ね、利用者の現状の把握に努め、医療と介護の協働が円滑に行われるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	GHでの日々の生活支援はもとより、ターミナルケアに向かっていく中での意向や、その他医療が必要になった際には状況に応じ都度都度対応していくようにしている。契約時に「重度化への指針」に基づいて事業所ですることができる対応について家族に説明し、同意を得ている。実際に重度化した場合は家族の意向を聞き、主治医や看護師等で話し合い、看取りや医療機関、他施設への移設も含めて方針を決めて共有し、取り組んでいる。	「介護の重要度への指針」に基づき、契約時に重度化や終末期に向けて事業所ですることができることを家族に説明している。実際に重度化した場合は、家族の意向を聞き、医師や看護師、職員で話し合い、方針を決めて共有してチームで支援に取り組んでいる。入院や他施設への移設について支援をしている他、看取りの対応をしている。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	事故発生時には、ヒヤリハット、事故報告書に記録し、その日勤務の職員で対応策を話し合い、申し送りノートで共有している。発生後は対応策や防止策について再検討し、介護計画に反映している。事故発生時に備えて、「異常時の発生対応マニュアル」に添って法人の看護師や事業所看護師から日常業務の中で指導を受けて、応急手当、感染症の対応など、実践力を身につけている。	事故発生時には、その場の職員がヒヤリハット報告書、事故報告書に記録し、その日の職員間で対応策を話し合い、申し送りで共有している。記録の閲覧や内部研修の資料の確認をするなど、事故防止に努めている。初期対応や応急手当はそれぞれの利用者の状態に合わせて、看護師からの個別助言を受けるなど、日々の業務の中で指導を受けているが、全職員が実践力を身につけるまでには至っていない。	・全職員が実践力を身につけるための応急手当や初期対応の定期的な訓練の実施
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	今年度は自衛訓練のみの実施である。長らく近隣協力員の協力体制を敷いてきて実績もあるが、協力員の高齢化が顕著であるため今後の体制について検討していかなければならない。	「消防計画」、「震災、風水害計画」に基づき、年1回の火災訓練と水害対策訓練を利用者と共に、自衛訓練を実施している。今年度はコロナ禍のために地域住民の参加は見合わせている。災害対策として水、布団、シーツ、懐中電灯、医療品、段ボール、感染予防グッズなどの備蓄の準備もしている。	・地域との協力体制の構築
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は、利用者一人ひとりのプライバシーの保護や人格の尊重について正しく理解している。職員は、利用者一人ひとりの人格を尊重し、人生の先輩として誇りやプライバシーを損ねない対応をしている。	職員は倫理規定に沿って、利用者の自尊心を傷つけない言葉づかいや声の大きさにも配慮して利用者一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。気になる言動や対応については施設長や管理者が指導をしている。個人情報規定により、個人情報や個人記録の取り扱いには注意を払い、適切に保管している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の思いの汲み上げと利用者それぞれの現状に合わせ、なるべくわかりやすい言葉や表現で関わるようにしている。また、職員にはなるべく利用者に問いを掛けるように促している。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の生活習慣や体調に合わせて関わるようにしている。また職員の都合に合わせて無きように指導していく事が引き続き必要である。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者おひとりおひとりのその人らしさとは何かを考え、身だしなみについても継続できるようにケアに取り組んでいる。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は、昼食と夕食の副食を法人内施設からの配食で、朝食は事業所で調理している。地域から野菜などの差し入れがあり、調理に利用している。利用者は、野菜の下ごしらえや盛り付け、テーブル拭き、盆拭き、下膳、食器洗いなどを職員と一緒にしている。利用者の状態により食事形態を工夫し、食べやすいように配慮している。	献立は法人厨房部署で作成し、朝食は各フロアで調理している。昼食と夕食は法人の厨房からの配食を利用している。食材は差し入れの物や畑で採れた野菜、スーパーからの宅配を利用している。朝食と夕食の副菜を必要に応じて、各フロアで用意している。利用者の状態に応じての食事量、硬さ、大きさの工夫、とろみなどの食事形態に配慮している。利用者は、野菜の下ごしらえ、テーブル拭き、盆拭き、下膳、食器洗いなどできることを職員と一緒にしている。利用者と職員は、同じ物を食べながら会話を楽しんでいる。季節の行事食(おせち、七草粥、祝日料理、敬老の日やクリスマスの料理など)、年数回の弁当、、おやつづくり(ホットケーキ、白玉ぜんざい)、保存食づくり(らっきょう漬け、しそジュース)など、食事を楽しむことのできる支援をしている。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者それぞれの体調や習慣に合わせて適切なバランスで提供できるようにしている。また、一日の全体量も把握し、個別に必要なアプローチも行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口内残渣の確認や口腔内の異変などの把握が行えるよう利用者個別に対応方法を定めている。必要があれば協力歯科医院への相談も行い受診、訪問診療など行っている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	生活リズムパターンシートを活用し、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握して声かけや誘導をしてトイレでの排泄や排泄の自立に向けて支援をしている。	生活リズム、パターンシートを活用して排泄パターンを把握し、利用者一人ひとりに合わせた声かけや誘導をして、トイレでの排泄や排泄の自律に向けた支援をしている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬剤のみに頼るのではなく利用者それぞれが気を付けてきた習慣は大切にしている。また、個別の排泄方法や便秘予防の対策まで食生活や日常生活から繋げられるように取り組んでいる。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は、毎日可能で、利用者の希望や体調に合わせてゆっくりと入浴できるように支援している。利用者の状態に応じて清拭、足浴、シャワー浴の支援をしている。入浴したくない人には、一人ひとりのタイミングに合わせた声かけや時間の変更、職員の交代などでの支援をしている。柚子湯や入浴剤を使って、入浴が楽しめるように工夫している。	入浴は毎日、午後から夕方まで可能で、利用者の希望やタイミングに合わせて朝の入浴の支援もしている。利用者の体調に合わせての清拭、シャワー浴、足浴の支援もしている。入浴したくない人には時間の変更や職員の交代、タイミングに合わせた声かけなど、無理強いをしないよう配慮して、個々に応じた入浴の支援をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	徐々にADLの状態も変化してくるので利用者ご本人に苦痛の無いように体調の把握に努めている。また夜間不安のある利用者に対しても共に過ごしたり、就寝前の心理面の不安の軽減に取り組み安心できるように取り組んでいる		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	かかりつけ医や専門医と相談を行ったり、薬剤師から薬剤の説明を受けるようにしている。また、ご本人の経過も含め報告を行うようにしている。ご家族にも新たに出た薬など適時報告するようにし、情報を共有できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者ご本人が長年培ってこられた経験や趣味など、その人らしさの継続支援が行えるように努めている。GHでの生活が受け身にならないような日常生活が送れるように支援している。	テレビの視聴、新聞や雑誌を読む、広告を見る、折り紙、ぬり絵、パズル、数並べ、公文、計算ドリル、俳句、書き写し、縫い物、編み物、テレビ体操、足踏み体操、歌を歌う、花壇の世話、食事の準備や片付け、洗濯物干し、洗濯物たたみ、モップ掛け、手摺り拭き、保存食づくり、季節の飾りづくり、個別の対応など、利用者一人ひとりに合わせた楽しみごとや活躍できる場面づくり、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年度については大きく制限してしまっているが、ドライブや家族との受診などで機会は持てるようにしている。最近入居した利用者は家族にもご理解いただき、自宅に戻ったりもしている。	散歩、外気浴、日光浴、事業所前の桜の花見、事業所支援の美容院や理容院の利用、ドライブなど個別の支援、家族の協力を得ての受診時の外出、ドライブ等で戸外に出掛けられるように支援に努めているが、コロナ禍で外出の機会は少なくなっている。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	所持を希望される利用者に関してはご本人が管理している場合もある。また買い物や外出する際にご本人にお渡しするケースなどもあり、ご本人の認知の状態に合わせて対応している。出来る限りは触れる機会が持てるように取り組んでいる		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族からの電話などは取り次いだり、ご本人の希望に応じ電話を掛けたりしている。制限は設けていないが掛ける先の方や手紙を送る先の方へ事前に了承は頂くようにしている。携帯電話を持っている利用者もいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には中庭側の窓から自然な光が差し込んで明るく、真向かいに見える温室で咲いている花などから季節を感じることができる。テーブルや椅子、ソファを利用者が使いやすいように配置している他、畳のコーナーがあり、一人ひとりがゆっくりと思いいに過ごせるような居場所づくりをしている。温度、湿度、換気にも配慮して、利用者が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	事業所は2階建てで、各階に1ユニットずつあり、玄関は別々になっている。温室や中庭もあり、利用者は花や木を育てたり、野菜づくりをして季節を感じることができる。共用空間は窓から自然の光が差し込み、利用者が思い思いに過ごせる居場所となっている。四季の花を生けて季節を感じることができる。台所からは食事の匂いや食器を洗う音などがして、生活感を感じることができる。壁面には写真や地域の人々の作品、季節毎の飾り物、折り紙、ぬり絵などを飾って、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのスペースや廊下の集いの場所、温室など思い思いに過ごせるようにしている。また、利用者の所在の確認も行い、お一人ずつの過ごす様子の確認も行っている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が安心できる生活環境の必要性をご家族にも理解を促し、入居時に必要な物品を用意してもらったり適時用意をお願いしている。入居前の生活がなるべく継続できるように努めている。	整理ダンス、衣装ケース、衣裳掛け、テレビ、ラジカセ、鏡台、椅子、のれん、時計、日用品、縫い物グッズ、雑誌、仏典、封筒、便箋、野球ボールなどの使い慣れたものや好みのものを持ち込み、カレンダー、家事句からの手紙、写真、ぬり絵や習字など利用者の作品を飾って、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロア内のリスクの多い場所や職員の目の届きにくい場所の把握を行い、リスクの少ないように整備をしている。また、利用者の認知状態に合わせて気付け、且つ自立した生活が出来るように分かりやすく工夫している。		

2. 目標達成計画

事業所名 グループホーム のんた

作成日: 令和 3 年 7 月 11 日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	5	運営推進会議の構成員のうち現在の地域住民の代表者の方の参加が難しくなっている。今後は学識経験者の方の参加も増やしていきたいと考えている。	運営推進会議の意義、効果について説明し、構成員の一員として参加して下さる方を増やしていく。	自治会の方や自主防災、近隣住民の方に改めて説明を行い、ご理解いただいた上で参加をお願いしていく。学識経験者については福祉サービス関係の方をお願いし、参加を依頼していく。	12ヶ月
2	35	感染症対策の研修会については行ったが、事故防止やヒヤリハット等の研修機会が十分でないため具体的な実践力を身に付けていく必要がある。	事業所内の研修機会として事故発生や急変時の初動や初期対応について身につけられる機会作りを行う。	転倒、転落をはじめ、誤嚥や急変時の対応について具体的に動けるように実技指導とマニュアル等の整理を行う。	12ヶ月
3	14	昨年度は集合での内部研修や外部研修の機会は持たないようにしていたため個人学習が中心となってしまっていた。参加時期や形式を考え研修参加を促す必要がある。	感染の状況を判断し、内部研修の機会をもつ。集合にはこだわらず、オンラインでの研修参加や動画等を活用した研修も企画していく。また個人資格の取得支援も行っていく。	集合で行う場合は3密は避けて複数回の開催や短時間での開催などの工夫をして学習機会の確保をする。認知症関係研修や基礎資格に関する研修について参加を計画的に行う。	12ヶ月
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。